

第6回 加茂市立小中学校適正規模等検討委員会 会議録

■ 日 時 令和4年6月29日(水) 14:00～16:15

■ 場 所 加茂市役所5階 全員協議会室

■ 出席者

・出席委員 14人 (うち、※1名オンライン)

遠藤英和委員	滝沢茂秋委員	中山勇委員	土田秀男委員
小畑一二美委員	平野政幸委員	阿部奈穂子委員	亀山弘子委員
中林利恵委員	市村正子委員	高畑結城子委員	目黒悦子委員
笹川裕子委員	小出浩輔委員※		

・欠席委員 5人

中村幸一委員	皆川輝一委員	茂野芳子委員	樋口明宏委員
松原啓委員			

・事務局 8人

加茂市教育委員会

教育長 山川雅巳	庶務課長 草野智文
学校教育課長 阿部一晴	社会教育課長 有本幸雄
スポーツ振興課長 五十嵐卓	学校教育課課長補佐 吉田国義
庶務課課長補佐 長澤敦	学校教育課係長 廣野達也

・教育委員(オブザーバー) 4人 (うち、※2名オンライン)

加茂市教育委員(教育長職務代理)	乙川智子※	加茂市教育委員	田邊俊樹
加茂市教育委員	藤田和子※	加茂市教育委員	太田正純

■ 傍聴者 0人

■ 議 事

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 議事
 - I 行政視察(埼玉県志木市)と第5回加茂市立小中学校適正規模等検討委員会(市外小中学校視察)の報告等
 - II 加茂市における望ましい教育環境等について(グループワーク)
テーマ:「10年後の加茂市の教育環境・学校施設は?」
4. その他
5. 閉会

1. 開会

□事務局（庶務課 草野課長）

- ・14人の委員の出席をもって、「加茂市立小中学校適正規模等検討委員会設置要綱」第6条第2項により、会議開催の成立を報告します。

2. 遠藤会長挨拶

- ・前回、5月30日(月)の第5回検討委員会では長岡市立東中学校、三条市立嵐南小学校・第一中学校を視察しました。
- ・安心安全で充実した施設設備の大切さ、地域防災や地域活動を含む地域との結びつきを想定した対応の工夫、教室のIT環境に伴った教室設備や設備の工夫、不登校児童生徒や特別な支援を要する児童生徒等への配慮、児童生徒と教職員の学ぶ環境・働く環境への配慮、教育における市の独自性の吟味が必要であることなど、様々な観点をあら、整理してみるものの大切さをあらためて教えられました。
- ・特に、中学校のこれからについて、これまでの話し合いの中で、中学校の集約等を優先的に考えるべきとの意見に着目し、教職員が円滑な教科指導ができる体制づくり、子どもたちの人間関係を育むために適していると思われる学級数、部活動の運営などを持続可能なものにしていくことも考えていく必要があると認識しました。
- ・今回の検討委員会ではグループワークを行います。10年後の加茂市を思い描きながら学校の教育環境や設備等について、これまでの検討委員会で得た情報を生かしながら意見交換してみたいと思います。

3. 議事

I 行政視察（埼玉県志木市）と第5回加茂市立小中学校適正規模等検討委員会（市外小中学校視察）の報告等

□事務局（庶務課 長澤課長補佐）

（資料3ページ～14ページに沿って説明。）

- ・第4回検討委員会で紹介させていただきましたが、魅力的な教育を展開している埼玉県志木市を教育委員会事務局職員4名が5月17日(火)に視察してきました。
- ・志木市は面積9平方キロメートルという狭い面積に人口7万6千人、東京のベッドタウンといえる志木市は、この先も人口が増えるとのことですが、そこでは「学社融合」を目指し、小学校と公民館、図書館の複合施設を建設し、地域と一体となった教育活動が展開されていました。
- ・公民館事業、図書館事業と一体化した授業や活動を通じ、子ども達の学習・体験活動の幅が広がり、市民としても子ども達との交流が図ることができ、児童・市民双方の教育の相乗効果が期待できるというものでした。
- ・公民館や図書館から小学校の教室が見える環境で、日中、公民館や図書館を利用される方の多くは高齢者であり、そこに多くの子ども達がともに元気に活動している環境

はそれだけで活力があり、とても興味深いものでした。

- ・なお、翌日5月18日(水)には文部科学省で学校と公共施設の複合化について、補助金などの説明を受けてまいりました。
- ・次に、5月30日(月)の第5回検討委員会（市外学校視察）についての報告です。
- ・1校目は長岡市立東中学校で、災害避難所との融合、教科教室方式など大変参考になりましたが、何よりモダンな建物で、「他の中学生からうらやましがられる」、「将来、自分がこのような施設を造りたい」と話してくれた生徒もいました。
- ・また、東中の未来を考える会、東中応援し隊など、地域との連携をととても大切にしていることが感じ取れました。
- ・2校目は、小中一貫型、施設一体型の三条市立嵐南小学校・第一中学校で、ここも比較的新しい施設です。
- ・三条市全体で小中9年間を通じた一貫教育が展開され、一定の成果をあげているものの、大きい学校ゆえの、ふるさとへの愛着などに少し課題があるとのことでした。
- ・また、三条市としてのコミュニティー・スクールについても説明を受けました。
- ・次に、視察後のさらなる質問と回答は資料のとおりですが、コミュニティー・スクールについて、学校運営協議会からの意見を取り入れて改善された点で、長岡東中では1年生の複数担任制を議論し、それを採用するに至ったなど、協議会では学校と地域が良好な関係で、活発な議論が行われていると感じ取ることができたと思います。
- ・教育環境・学校運営では、人数や校舎があまり大きすぎても大変、コミュニティー・スクールなどを通じた地域・OB・OG・PTAとの繋がりが大切、きれいで機能的な施設は子どもたちが明るくなり、やる気が出るのではないかとの意見、感想をいただきました。
- ・その他として、子どもたち・教職員・地域がそれぞれの立場でプラスになる環境、助け合う環境が必要、地域と一緒に子どもを育てるには地域自体にその認識を浸透させる必要があるなどといったご意見をいただきました。
- ・また、学校運営やコミュニティーの形成・維持が持続可能なものとなって欲しいという委員さんの思い、児童生徒数の減だけで学校の再編や改築を考えるのではなく、教育目標・テーマを掲げて、そのための新しい校舎を造りたいというプロセスが良いのでは、という意見もいただき、それが地域や保護者の理解を得る方法の1つであると受け止めました。

□会長

- ・ここままで質問等はございますか。

□委員

- ・市外視察の3校に共通するテーマである「コミュニティー・スクール」のメリットを教えてください。
- ・私は市外視察に出席することができなかつたため教えてもらいたいです。

□委員

- ・それぞれが地域の方々と一緒になって学校を運営していくということから「地域密着

型」という印象を受けました。

- ・他に私が見学したことがあるところと言えば、神奈川県（横浜市都筑区）の東山田地区では、学校の中にコミュニティーハウスを設置していました。
- ・そこでは、いつでも気軽に地域の方々が集い、子どもたちと触れ合うことができ、学校との連絡や相談もしやすいという、「子どもと大人と一緒に集い、学ぶ場」、「地域と学校を結ぶ場」として重要な役割を果たしていました。
- ・教職員も保護者・地域の人が、「わたしのまち」、「わたしたちの学校」という意識を持つための良い取り組みであると感じました。

□委員

- ・私が赴任していた三条市では、数年前から本格的に取り組んでいましたが、委員の選定を行い、学校運営協議会を立ち上げ、年3・4回の会議を開催し、そこで話し合っていることがどの様に学校に影響を与えるのか、学校を支援できるのかということを中心に議論していた印象があります。
- ・手探りではありましたが、まずはやってみようということで、既存のあいさつ運動、あいさつ標語の取り組みなどを強化するなど、一緒に動きながら考え、次の活動へと少しずつ進んでいた印象でした。

□委員

- ・長岡東中学校で感じたことは、「東中の未来を語る会」、「東中応援し隊」という2つの組織があり、特に「東中応援し隊」は地域が自発的・主体的に関わっており、効果を発揮している印象を受けました。
- ・これは今後の加茂市を考えるうえで、良いヒントになるのではないかと思います。

□委員

- ・「地域密着型」というのは、今後の加茂市を考えるうえで重要なポイントとなると思います。
- ・「東中応援し隊」は、加茂市で地域に根付いていく組織の形成や取り組みを考えていくうえで参考になると思いました。

□会長

- ・多くの学校の事例をみても、地域と学校の良い関係を築いていくことは大事だと思います。
- ・地域と学校が話し合っ、学校のことだけではなく、地域と一体となった教育活動の在り方を探っていくとともに、企画や実行の道をつくっていくことが大切です。
- ・そのために、教職員自身がコミュニティー・スクールについてさらに関心を持って取り組んでいく必要があると感じています。

II 加茂市における望ましい教育環境等について（グループワーク）

テーマ：「10年後の加茂市の教育環境・学校施設は？」

□事務局（庶務課 長澤課長補佐）

- ・グループワークを始める前に、答申案の大雑把なイメージについて説明します。

- ・これまでの話し合いや今回のグループワーク等を基に、今後事務局が答申案の作成に着手し、皆様から審議していただく予定です。
- ・第1章は「現状と課題」ということで、これまでお示した児童生徒数の推移等のデータを中心にまとめたいと思います。
- ・第2章は「加茂市が目指す教育・こどもの姿」をまとめたいと思います。
- ・第3章は「望ましい教育環境に関する基本的な考え方」、第4章は「望ましい教育環境を実現するうえで配慮すべき事項」とし、第5章の「望ましい教育環境の実現を進めるにあたって」というところを、例として、コミュニティー・スクール、ふるさと愛を育む教育活動、小中連携、ICT、部活動といったこれまでの会議のキーワードを挙げていますが、あくまでも例ですので、今回委員さんの思いをどんどん出して欲しいところです。
- ・10年後の加茂市を想像し、少数でも光輝く加茂市の教育環境とは何かを考えながら、意見をどんどん出し合っていただければありがたいです。

□事務局（グループワーク進行：学校教育課 廣野係長）

○テーマ：「10年後の加茂市教育環境・学校施設は？」

○方法：KJ法

○流れ：

- ・グループワーク分け（4グループ）
- ・進行役（発表・記録）の決定
- ・個人作業（付箋に意見・アイデアの量産→付箋に書く） ※10分
- ・グループワーク（説明しながら付箋を貼る） ※1人 3分
- ・グループワーク（グルーピング） ※10分
- ・グループワーク（マッピング） ※10分
- ・グループワーク（グループ全体のまとめ・ラベリング） ※10分
- ・休憩 ※15分
- ・グループ発表・シェアリング
- ・質疑応答
- ・総評

※グループ発表

【①グループ】

- ・キャッチコピー：「全国から視察が訪れるまち 子どもも大人もみんなが自慢できる学校をつくる みんなで加茂のPRを！」
- ・「部活動」：メニューが盛りだくさんで充実し、保護者が積極的に協力できるものとなることが理想。
- ・「生活」：登下校の安全確保、子どもたちのカバンが軽くなるような環境であって欲しい。
- ・「学び」：高等教育を見据えた教育、高校・大学との連携、子どもたちが「楽しい」

と思える学びの場を提供したい。

- ・「施設」：バリアフリー、クラス替えや体育祭などのチーム分けができる学校規模が望ましい。
- ・「DX」：ICTを活用した在宅授業、外国との交流、テキストはオンラインで。
- ・「コミュニティー」：空き店舗を活用するなど地域との交流に注目、加茂市全体を学校ととらえ地域にサテライト教室を設置してはどうか。
- ・「まちづくり」：大学生が研究テーマとすることで活性化するのではないか。

【②グループ】

- ・キャッチコピー：「加茂市で育つ 心豊かな 子どもたち」
- ・「学び」：加茂市の学びの資源はたくさんあるので、小中高で時間をかけて加茂が大好きになる子ども、加茂市の将来を担う人材を育てていきたい。
- ・「コミュニティー」：顔と名前がわかる関係を大事にしなが、地域が学校に関わることが必要。
- ・「施設・整備など」：伸び伸びと学べる校舎・設備で、地域の方々にとっても有益な場所でありたい。
- ・「安心安全」：スクールバスの活用、安全安心な給食。
- ・「部活動」：選択できるメニュー、特色ある部活動を設け、子どもたちが活躍できる場を設けたい。
- ・「加茂に通わせたい」：保護者が加茂市の学校に通わせたいと思うような学校や雰囲気づくりが必要。

【③グループ】

- ・キャッチコピー：「将来への希望を持って 加茂に生きる」
- ・「出生数を考えることの大切さ」：少子化が進む中、保育園も含めて規模を考えたい。
- ・「現状への要望」：加茂かるたを使って学校対抗戦ができないか、児童館利用者対象年齢（現行、原則小学3年生まで）の引き上げを、小学校学区の見直しができないか、長岡東中学校のような全天候型屋内施設（子どもが遊べるような場所、災害時等にも有効活用）が欲しい。
- ・「部活動」：例えばゴルフ部など他にはない特色ある部活動を設けてみてはどうか、競技等によって差がある施設設備を平準化したい。
- ・「コミュニティー（地域の人材等を活用した取り組み）」：地域の声を学校に（コミュニティー・スクールの導入を）、学校併設のコミュニティーセンターで放課後学習や地域の会合ができる、地域の方々が気軽に足を運べる場があると良い、地域と学校を繋げるコーディネーターが欲しい。
- ・「ふるさと愛を育む人づくり」：「加茂学」を設置、ふるさとへの愛着を持つための教育、ふるさと学習のさらなる取り組み。

【④グループ】

- ・キャッチコピー：「加茂が元気になる学校 地域も学校も Win Win !!」
- ・「施設・設備」：洋式トイレ増設を含むトイレの充実、きれいな外観・デザイン性・

テーマパークのような施設等子どもたちが通いたくなる学校にしたい。

- ・「規模」：1学年2・3クラス編成でクラス替えができるの良い、子どもたちの多様な交流や社会性を育むことができる環境を。
- ・「部活動」：個性や得意なことが伸ばせる環境を。
- ・「地域との交流」：高齢者と子どもが交流して活性化、地域・学校・公民館の壁をなくしたい、子ども・親・大人の顔がわかる関係が安全に繋がる、地域の中の学校・学校の中の地域という考え方で Win Win の関係を。

※総評

□遠藤会長

- ・学校というのは、学びの機会を保障する、学力を保障するという面の他に、安心安全な居場所という福祉的な機能も持ち合わせており、さらには、社会性、人間性を育てるといった社会的機能もあります。
- ・しかし、これからの学校はそれだけではなく、地域と学校がどのように連携できるのかという視点で、どのグループでも活発に話し合われていたと思います。
- ・総評すれば、5つの点に整理できるのではないかと思います。
- ・1つ目は「連携・交流」であり、高齢者・小中同士・公民館・まちづくり協議会・児童館・幼稚園・保育園との交流等、加茂が元気になる学校というものを考えた時に、「加茂だからできること」という視点をもって探っていくことは価値があることだと思いました。
- ・一例を挙げれば、中学校の空き教室を利用して子育てサロンを開設するなど、そういった考え方があっても良いのではないかと思います。
- ・2つ目は「校舎」であり、安全安心であることは勿論、財政的な課題もありますが、具体的に中学校は1校、学区の見直しという点まで話し合っていたグループもありました。
- ・3つ目は「加茂学などを通じたひとづくりと地域活性化」であり、これまでも総合学習のなかで加茂を学んできましたが、これを通じて「加茂のひとづくり」をしているという視点、地域活性化にも繋がるという視点、地域全体が学校・先生になるという視点をどのグループも持っていたと思います。
- ・4つ目は「部活動」であり、生徒の活躍の場を保障することをどのグループでも話し合っており、部活動についても適正規模等の観点として重要であることが示唆されたと思います。
- ・5つ目は不登校児童生徒の配慮や対応についてという視点も含め、空き店舗の活用、公民館を教室として活用、地域にサテライト教育を置いてはどうかなど、IT環境も整備されているなかで「学び方の工夫」を考えていくこと、集団にとらわれず個を磨く教育の在り方を探る視点を持つことが大切だと思いました。
- ・その他、校舎等雨漏りの修繕、トイレの環境改善等もとても大事なことと思いますし、タブレットの持ち帰りで子どもたちのカバンはさらに重くなっていることから、改善

できるよう努めていただきたいと思います。

4. その他

□事務局（庶務課 長澤課長補佐）

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から現地視察を断念していた、湯沢学園から学校紹介の動画を提供していただきましたので、YouTubeにてぜひご覧ください。
- ・その湯沢学園から現地視察の許可をいただきましたので、日程を7月末とし、近日中にご案内しますので、ぜひご参加ください。

5. 閉会

□事務局（山川教育長）

- ・皆様からたくさんの意見をいただき、大変有意義な検討委員会になったと思います。
- ・また、トイレの環境改善についてもご指摘をいただき、これは大変重要な問題であると認識しています。
- ・仮に新校舎を建設するとなれば、個人的には「子どもたちが行きたがるトイレ」をコンセプトにし、全国から頻繁に視察が訪れるようなものにしたいと思っています。
- ・ご質問、ご意見等ございましたら、いつでも事務局にお問い合わせください。
- ・本日は本当にありがとうございました。